資料２

京都市動物園コレクションプラン（案）

コレクションプランとは，生物の保存，繁殖に取り組むために生物を選定，分類し，管理していく計画のことである。

京都市動物園のコレクションプランは，公益社団法人日本動物園水族館協会（JAZA）のコレクションプラン（JAZA collection plan，　JCP）を基に検討し立案した。本園のこれまでの取組や実績，飼育状況に加え，域外保全への貢献，教育的価値，学術的価値，展示効果を指標にして選定し，最優先種，優先種，維持種，調整種の４つのカテゴリーに分けて管理していく。

指標を総合的に判断した結果，本園が最優先種として位置付けたのは，ニシゴリラ，ツシマヤマネコ，アジアゾウ，グレビーシマウマ，イチモンジタナゴの５種（全体飼育種の約 4%）であり，計画的に繁殖を進めよりよい飼育管理及び飼育環境作りに取り組む優先種として 20 種（全体飼育種の約 17%）を選定した。また，飼育展示を継続する維持種として 91 種（全体飼育種の約 75%），個体群の維持管理が困難なことや動物福祉の面から改善が困難で飼育展示の見直しが必要な調整種として 5 種（全体飼育種の約 4%）を選定しており，今後も適正な展示種及び個体数の見直しを定期的（概ね３年ごと）に行っていく。

また，飼育動物全体に対し，動物福祉に配慮した管理に務めるとともに，必要に応じハズバンダリートレーニング（健康管理のために行う受診動作訓練）計画を立案し実践していく。

	哺乳類	鳥類	両性･爬虫類	魚類	計
最優先種	4			1	5
優 先 種	１１	4	5		２０
維 持 種	２３	３６	３１	1	９１
調 整 種	3	2			5

最優先種　5種　特に繁殖を推進し域外保全に寄与する種

和名：ニシゴリラ
学名：*Gorilla gorilla*
英名：Western Gorilla

危機的状況の評価：CR（IUCN 2018）

法的規制：CITES I， 種保存法：国際希少野生動植物種
国内状況：6 園館　オス 10 頭，メス 11 頭（2019 年 5 月）
園内状況：4 頭：オス 3（うち BL2），メス 1
背　　景：

本園では昭和 35（1960）年から飼育を開始しており，約 59 年間の飼育歴を有している。
昭和 45（1970）年に本邦初の繁殖に成功（オス）している。
昭和 57（1982）年に本邦初繁殖したオスが父親になっており，3 世代目の繁殖に成功した。
昭和 62（1987）年，日本動物園水族館協会（JAZA）が繁殖等に貢献した園館に贈呈する第 1 回古賀賞を受賞。
平成 23（2011）年，本邦初繁殖個体を父に持つメスと国内繁殖オスとの間に，4 世代目が誕生した（2013 年古賀賞受賞）。国内繁殖個体によるペアの初繁殖例であり，平成 30 年に第 2 子が誕生している。

コレクションとしての評価：
(1) 歴史的背景から本園のシンボル種的な存在である。
(2) 非常に人気が高い種で展示効果が高く，教育的価値は高い。
(3) 現在，繁殖可能なペアを飼育しており，第 3 子の繁殖も期待できる。
(4) 第 1 子を飼育員が親に戻すまでを描いた「返そう赤ちゃんゴリラをお母さんに」が書籍化（2013 年 11 月）されている。

個体群管理の目標
(1)ハズバンダリートレーニングを進展させ，健康管理の水準を向上させる。
(2)飼育施設環境を整え，より快適に過ごせる配慮を行う。
(3)繁殖子（7 歳，9 ヶ月）の健やかな成長を促す。
(4)ゴリラの保全及び普及啓発に取り組む。

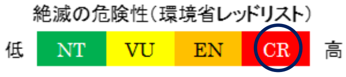
個体群管理の課題
(1) 海外からの個体導入の可能性を調査
(2) 飼育管理技術の水準を示すための情報発信
(3) 繁殖子（7 歳）の移動先等を含めた飼育管理方針

2020 年の計画
(1) 関係者との連絡調整
(2) 国際会議等への参加，報告
(3) ハズバンダリートレーニングの推進
(4) 教育普及活動の実践（世界ゴリラの日イベント，SNS 等への情報発信等）

関係者
・JAZA 計画管理者　上野動物園，専門技術員　京都市動物園
・国際血統登録担当者　ドイツ・フランクフルト動物園
・地域における飼育計画調整者
　SSP（AZA）　アメリカ　クリーブランド　メトロパーク動物園
　EEP（EAZA）オランダ　アーペンハウル動物園
・特別学術顧問　山極 壽一（京都大学総長）
・学術顧問　伊谷 原一（京都大学野生動物研究センター）

和名：ツシマヤマネコ
学名：*Prionailurus bengalensis euptilurus*
英名：Tsushima Leopard Cat

危機的状況の評価：CR（環境省 2015）



LC（IUCN 2015）

法的規制：CITESⅡ，文化財保護：天然記念物，種保存法：国内希少野生動植物種
国内状況：9 園館，オス 16 頭，メス 16 頭（2019 年 8 月 31 日）
園内状況：4 頭，展示 1 頭（メス），繁殖棟 3 頭（オス 2，メス 1）※環境省所有
背景：

平成 21（2009）年に策定した共汗でつくる新「京都市動物園構想」において，国内絶滅危惧種の保全への寄与として，ツシマヤマネコの飼育を決め，平成 24（2012）年に展示個体（メス 1）を導入し，やまねこ博覧会を開催するなど普及啓発事業を開始した。

平成 27 年には非公開施設として建設した繁殖棟に繁殖個体を導入した。翌 28 年には交尾・妊娠に至ったが，自然分娩できず，帝王切開したものの死亡している。平成 29 年も自然分娩には至らなかったため，京都市獣医師会の協力を得て帝王切開を行い，2 頭を娩出し，人工哺育に成功し，本州で初の繁殖成育例となった。

現在は，環境省と JAZA との間で「生物多様性保全の推進に関する基本協定」を締結し，本園は飼育下繁殖第 2 拠点施設として取組を継続している。

コレクションとしての評価：

（1） 国内の絶滅危惧種である。
（2） 環境省の保護増殖事業に参加し，飼育下繁殖第 2 拠点施設となっている。
（3） 本州初の繁殖成育に成功している。
（4） 本園の取組を取り上げた「ツシマヤマネコ飼育員物語」-動物園から野生復帰をめざし-（2017 年 10 月）が刊行されている。

個体群管理の目標

（1） 飼育繁殖技術の向上
（2） ハズバンダリートレーニングの推進
（3） 保全及び啓発事業の取組

個体群管理の課題

（1） 繁殖可能な個体（ファウンダー）の確保
（2） 行動観察と繁殖適期の把握と対応
（3） 出産前後の対応（臨機応変な体制構築と対応）
（4） 繁殖の継続

2020 年の計画

（1） JAZA の飼育管理検討会議での決定に従い個体の移動
（2） ハズバンダリートレーニングの進展
（3） 国内 2 番目の高齢個体への飼育に関する情報収集と報告

関係者

・JAZA 生物多様性委員会　保全戦略部　京都市動物園
・JAZA 計画管理者　福岡市動物園
・環境省　九州地方環境事務所　野生生物課
・環境省　九州地方環境事務所　対馬自然保護官事務所（対馬野生生物保護センター）

資料2

和名：アジアゾウ
学名：*Elephas maximus*
英名：Asian Elephant

危機的状況の評価：EN（IUCN 2008）

法的規制：CITES I，取引規制（種保存法）
国内状況：32 園館，オス 21 頭，メス 61 頭（2018 年末）
園内状況：5 頭，オス 1（ラオス），メス 4（マレーシア 1，ラオス 3）
背景：
1907 年に飼育を開始しており，100 年を越える歴史がある。
「日本・ラオス外交関係樹立 60 周年」（平成 27 年），「京都市動物園開園 110 周年」（平成 25 年）を契機に，両国友好のシンボルとして，更には，京都にラオス人民民主共和国名誉領事館が開設され市民交流のシンボルとして，ラオス国内の使役ゾウを京都市動物園に群れ（オス 1 頭，メス 3 頭）で導入する「ゾウの繁殖プロジェクト」が策定され，取組を進めている。
コレクションとしての評価：
(1) ラオスと協働して繁殖プロジェクトを進めている。
(2) 動物園の動物として非常に人気が高い。
(3) 研究対象種として，学術教育的効果が高い。
個体群管理の目標
(1) 健康な成育及び生理学的情報の収集
(2) ハズバンダリートレーニングの進展
(3) 繁殖の成功
個体群管理の課題
(1) 飼育管理に適した施設への改修（安全対策）
(2) 繁殖した際の個体の受入先
(3) 高齢個体の飼育管理
2020 年の計画
(1) ゾウ会議への参加
(2) ラオスとの人的交流事業の推進
(3) 生息地の現状及び保全に関する啓発活動（ラオス展等）
関係者
・JAZA 計画管理者　上野動物園
・SSP　アメリカ　セントルイス動物園
・EEP　オランダ　ブライドープ動物園
・京都大学野生動物研究センター
・ラオス農林省
・ラオス国立大学

資料 2

和名：グレビーシマウマ
学名：*Equus grevyi*
英名：Grevy's zebra

危機的状況の評価：EN（IUCN 2016）

法的規制：CITES I
国内状況：7 園館　オス 12 頭，メス 10 頭（2018 年末）
園内状況：2 頭　オス 1，メス 1
背景：

JAZA の計画管理者を長年にわたり，本園で努めている。2017 年度計画推進会議において他のウマ科動物管理者を招き，ウマ科動物の国内コレクションについて協議を開始した。また，2019 年度計画推進会議はウマ科動物全体の拡大会議として実施する予定である。

EAZA の EEP コーディネーターとは動物導入，共同研究などで信頼関係を構築できており，日本国内の個体群維持に貢献できる。

コレクションとしての評価：

(1) 平成 27（2015）年にオランダからメスを導入しており，新たな血統を保有している。
(2) シマウマ 3 種の中で最も個体数が少なく，希少性が高い。
(3) 大型の種であり，縞模様が美しく，展示効果が高い。
(4) キリンとの混合飼育が出来ており，教育的効果を生み出している。

個体群管理の目標

(1) 新たな繁殖
(2) ハズバンダリートレーニングの進展

個体群管理の課題

(1) 繁殖した際の個体の受入先
(2) サブグラウンドの追加などの施設改修
(3) 新たな血統の導入

2020 年の計画

・計画推進会議の主催（川崎夢見ケ崎動物公園）
・関係者との連絡調整による情報収集

関係者

・JAZA 計画管理者　京都市動物園
・EEP　イギリス　マーウェル動物園
・SSP　アメリカ　セントルイス動物園

和名：イチモンジタナゴ
学名：*Acheilognathus cyanostigma*
英名：Striped bitterling

危機的状況の評価：絶滅危惧 IA 類 CR（環境省 2013），

絶滅の危険性（環境省レッドリスト）
低　NT　VU　EN　CR　高

京都府：絶滅寸前種（2015）

絶滅の危険性（京都府レッドリスト）
低　準絶滅危惧種　絶滅危惧種　絶滅寸前種　高

滋賀県：指定希少野生動植物種

法的規制：捕獲禁止（滋賀県，琵琶湖淀川水系）

国内状況：5 園館（宮津水族館，琵琶湖博物館，京都市動物園，京都水族館，姫路水族館）
※うち平安神宮由来個体群は，前記の左から 3 施設。

園内状況：44 尾浮上（2018）

背景：

地域の絶滅危惧種であり，その種に対する保全活動及び生息域内活動は重要である。

市内の小学 4 年生で必修課題となっている「琵琶湖疏水」と深く関わっている種であり，教育的な効果が高い。

京都府下で最後に生き残っていた個体群が平安神宮におり，同じ琵琶湖疏水の流れを汲む，本園で保全活動を行う意義は非常に高い。

コレクションとしての評価：

(1) 地域に貢献できる取組である。
(2) 琵琶湖疏水との関わりから教育的効果が高い。
(3) 生息域内保全につながる。

個体群管理の目標

(1) 稚魚の育成率を上げる等，飼育技術の向上に努める。
(2) 「守れ！イチモンジタナゴプロジェクト」の継続発展。

個体群管理の課題

(1) 稚魚の育成率を上げる等，飼育技術の向上に努める。
(2) 園内噴水池の整備（外来種駆除）及び放流
(3) 人材の育成

2020 年の計画

- 「守れ！イチモンジタナゴプロジェクト」の開催
- 啓発リーフレットの第 2 版作成

関係者

- JAZA 計画管理者　琵琶湖博物館
- 平安神宮
- 東海タナゴ研究会（岐阜県）
- ぼてじゃこトラスト（滋賀県）

優先種　２０種　計画的に繁殖に取り組み飼育展示を優先する種

和名：チンパンジー

学名：*Pan troglodytes*
英名：Chimpanzee

危機的状況の評価：EN（IUCN 2016）

法的規制：CITES I，国際希少野生動植物種
国内状況：37 園館，オス 88 頭，メス 118 頭　（2018 年末）※ニシチンパンジー
園内状況：6 頭　オス 4 頭（BL1），メス 2 頭（BL1）
背景：

平成 20（2008）年 4 月に京都大学と京都市の間で，「野生動物保全のための研究と教育に関する連携協定」を締結。熊本サンクチュアリの協力を得て，群れを導入し，平成 25（2013）年に 49 年ぶり 2 例目の出産に至る。また，連携の締結とともに研究者（現・田中センター長）を受け入れ，研究者が常駐する動物園となると同時に，チンパンジーの比較認知領域の研究（数字の学習等）を展示する動物園となった。

そして，平成 25（2013）年に動物園における学術研究・環境教育の一層の推進を図るため，「生き物・学び・研究センター」を設置した。

平成 29（2107）年 6 月，「生き物・学び・研究センター パワーアップ事業」として，体制が強化され，福祉面の研究にも取り組んでいる。

平成 30 年 6 月，わんぱーくこうちアニマルランドからメスを借り受けて繁殖に取り組んだ結果，オス 1 頭が誕生した。

コレクションとしての評価：
(1)　高度な社会性を持ち，人の幼児にも匹敵する高度な知能を有する類人猿であり，教育的・学術的価値が高い。
(2)　京都大学と連携して取り組んでいる。
(3)　国内の個体群維持に寄与できる。

個体群管理の目標
(1)　ハズバンダリートレーニングの発展
(2)　動物福祉に配慮した飼育環境の改善
(3)　研究成果の発表
(4)　教育普及活動の実践

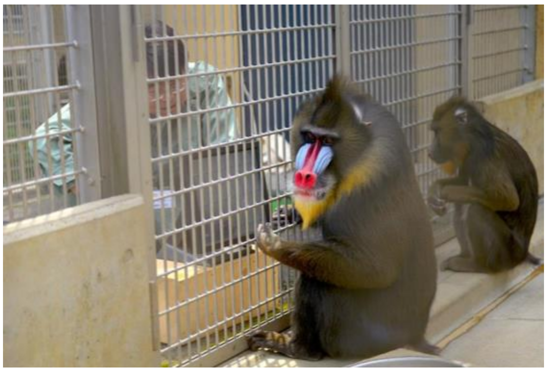
個体群管理の課題
(1)　飼育施設の整備
(2)　人材の育成

2020 年の計画
・「チンパンジーの喜ぶ顔が見てみたい」の開催
・施設整備，飼育管理方針の検討

関係者
・JAZA 計画管理者　多摩動物公園，専門技術員　京都市動物園
・京都大学野生動物研究センター熊本サンクチュアリ
・学術顧問　伊谷 原一（京都大学野生動物研究センター）
・NPO 法人サンクチュアリ・プロジェクト

資料２

和名：マンドリル
学名：*Mandrillus sphinx*
英名：Mandrill



危機的状況の評価：VU（IUCN 2016）

法的規制：CITES I
国内状況：24 園館，オス 41 頭，メス 38 頭　（2018 年末）
園内状況：5 頭　オス 2 頭，メス 3 頭
背景：

平成 2（1990）年に本園で誕生したオスと平成 14（2002）年に来園したメスの間で，平成 16（2004）年に第一子が誕生して以来，平成 22（2010）年までに 5 産（マンジュウロウ，マンドリン，マンマル，ランマン，ロマン）している。

その後，オスの死亡に伴い，平成 24（2012）年に来園した新たなオスとの間にも平成 25（2013）年から平成 30（2018）年までに 5 産（マンゴー，ディアマンテ，サマンサ，ヨシツネ，シズカ）と，豊富な繁殖実績がある。

また，ブリーディングローンに基づき，3 園（天王寺，安佐，のいち）に貸し出しており，うち 2 園で繁殖に成功している。

平成 20（2008）年から「数字の順番を覚える勉強」を開始しており，これまでに誕生した子どもたちも参加するなど，データが蓄積されている。

コレクションとしての評価：

(1) 鮮やかな色彩の特徴的な外貌から展示動物としての人気は高い。
(2) 野生下での生態や生息数など不明な点も多く，学術的価値が認められる。
(3) 繁殖実績が豊富にある。

個体群管理の目標

(1) 動物福祉に配慮した飼育環境の改善
(2) 研究活動の継続発展
(3) 持続的な飼育展示可能な繁殖

個体群管理の課題

(1) 繁殖個体の移動先の確保
(2) 飼育施設の整備
(3) 人材の育成

2020 年の計画

・飼育環境の改善
・施設整備，飼育管理方針の検討

関係者

・JAZA 計画管理者　豊橋総合動植物公園
・EEP　ハンガリー　ブダペスト動植物園
・学術顧問　伊谷 原一（京都大学野生動物研究センター）
・京都大学 アフリカ地域研究資料センター 特定研究員（マンドリル研究者）

和名：レッサースローロリス
学名：*Nycticebus pygmaeus*
英名：Lesser Slow Loris
危機的状況の評価：VU（IUCN 2008）
法的規制：CITES I，国際希少野生動植物種
国内状況：13 園館，オス 34 頭，メス 32 頭
園内状況：2 頭　オス 2 頭，メス 0 頭

和名：ヨーロッパオオヤマネコ
学名：*Lynx lynx*
英名：Eurasian Lynx
危機的状況の評価：LC（IUCN 2015）
法的規制：CITESⅡ，
国内状況：4 園館，オス 4 頭，メス 3 頭
園内状況：1 頭　オス 1 頭，メス 0 頭

和名：レッサーパンダ
学名：*Ailurus fulgens*
英名：Red Panda (Lesser Panda)
危機的状況の評価：EN（IUCN 2015）
法的規制：CITES I，国際希少野生動植物種
国内状況：56 園館，オス 124 頭，メス 144 頭
園内状況：2 頭　オス 1 頭，メス 1 頭

和名：ケープハイラックス
学名：*Procavia capensis*
英名：Cape Hyrax
危機的状況の評価：LC（IUCN 2015）
法的規制：―
国内状況：―
園内状況：4 頭　オス 2 頭，メス 2 頭

和名：ハヤブサ
学名：*Falco peregrinus japonensis*
英名：Peregrine Falcon
危機的状況の評価：LC（IUCN 2016）
VU（環境省 2012）
法的規制：CITES I，国内希少野生動植物種
国内状況：11 園館，オス 13 頭，メス 8 頭，不明 4 頭
園内状況：2 頭　オス 1 頭，メス 2 頭

和名：ジャガー
学名：*Panthera onca*
英名：Jaguar
危機的状況の評価：NT（IUCN 2017）
法的規制：CITES I，国際希少野生動植物種
国内状況：9 園館，オス 9 頭，メス 4 頭
園内状況：2 頭　オス 1 頭（BL1），メス 1 頭（BL1）

和名：ヤブイヌ
学名：*Speothos venaticus*
英名：Bush Dog
危機的状況の評価：NT（IUCN 2011）
法的規制：CITES I，国際希少野生動植物種
国内状況：5 園館，オス 11 頭，メス 8 頭
園内状況：3 頭　オス 2 頭，メス 1 頭

和名：フェネック
学名：*Vulpes zerda*
英名：Fennec
危機的状況の評価：LC（IUCN 2015）
法的規制：CITES I，国際希少野生動植物種
国内状況：13 園館
園内状況：2 頭　オス 1 頭（BL1），メス 1 頭

和名：キリン
学名：*Giraffa camelopardalis*
英名：Giraffe
危機的状況の評価：VU（IUCN 2018）
法的規制：―
国内状況：59 園館，オス 80 頭，メス 87 頭
園内状況：3 頭　オス 1 頭，メス 2 頭（BL1）

和名：フンボルトペンギン
学名：*Spheniscus humboldti*
英名：Humboldt Penguin
危機的状況の評価：VU（IUCN 2018）
法的規制：CITES I，国際希少野生動植物種
国内状況：80 園館，オス 804 頭，メス 914 頭，不明 157 頭
園内状況：11 頭　オス 5 頭，メス 6 頭（BL1）

他

維持種　９１種　飼育展示を維持する種

飼育展示を維持する種
ショウガラゴ，ニッポンツキノワグマ，ブラジルバク，ムササビ，シロフクロウ，エミュー，アオバトなど

調整種　５種　飼育展示の見直しが必要な種

和名：ライオン
学名：*Panthera leo*
英名：Lion

危機的状況の評価：VU（IUCN 2014）

法的規制：CITES II
国内状況：51 園館，オス 232 頭，メス 229 頭　不明 2 頭
（2018 年末）
園内状況：1 頭（オス）
背景：

明治 40（1907）年にメス，明治 41（1908）年にオスをハーゲンベックから購入し，このペアが明治 43 年に日本ではじめて 4 頭の子ども（オス 2，メス 2）を誕生させ，そのうちオス 1 頭が檻の外に転落したため，のちの第 4 代園長が畜養主任だった頃に，婦人と協力して，日本で初となる人工哺育でライオンを育てあげた。

昭和 7（1932）年，小桜号（オス）が飼育員が閉め忘れた扉から舎外に脱走し，射殺された。

昭和 19（1944）年，軍の命令によって，ライオン 4 頭（オス 2，メス 2）が処分（銃殺，毒殺，絞殺）された。

昭和 30（1955）年，南猛獣舎を新設し，ライオンのペアを飼育

平成 5（1933）年，猛獣舎を新設し，ライオンのペアを飼育

平成 9（1997）年，現オス個体の飼育開始（繁殖制限のためパイプカット）

平成 24（2012）年，もうじゅうワールドが整備され，ライオンのペアを飼育

平成 29（2017）年にメスが死亡（平成 12（2000）年から飼育開始）し，オスの単独飼育となる。同年，本園のライオン飼育に対する苦言が世界動物園水族館協会（WAZA）経由で届けられ，飼育方針（終生飼養）を回答。あわせて，海外からの来園者に向けたメッセージを掲示。

コレクションとしての評価：

(1) JCP で繁殖を制限しなければならない種になっている。

(2)野生ネコ科動物において，国内では最も人気のある種のひとつ。

個体群管理の目標

(1) 動物福祉に配慮した飼育管理

(2) 国内最高齢記録の更新及び世界記録（27 歳）の達成

個体群管理の課題

(1) 飼育施設が狭い

(2) 群れで暮らす種だが，群れ飼育が出来ない

(3) 老齢個体１頭のみの展示になっている。

2020 年の計画

・終生飼養

・飼育方針並びに SNS 等での情報発信

関係者

・JAZA 食肉類別調整者　アドベンチャーワールド

方針：

本来は群れで暮らすライオンを飼育するための十分な広さが確保できないことから，動物福祉に配慮し，飼育展示を中止する。

和名：オナガゴーラル
学名：*Naemorhedus caudatus*
英名：Long-tailed Goral

危機的状況の評価：VU（IUCN 2008）

法的規制：CITES I
国内状況：1 園館，オス 0 頭，メス 1 頭　JCP 未掲載（2018 年末）
園内状況：1 頭（メス）
方針：
国内で唯一の個体であり，飼育展示の安定的な持続性が保たれないことから，飼育展示を見直す必要がある。新たな個体は導入せず現在の個体については終生飼育としたい。

和名：アカゲザル
学名：*Macaca mulatta*
英名：Rhesus Monkey

危機的状況の評価：LC（IUCN 2008）

法的規制：CITES II
国内状況：JCP 未掲載
園内状況：オス 1 頭，メス 15 頭　（2018 年末）
方針：
飼育園が少なく，多様性を維持するためのオスの入れ替えができず個体群の維持管理が困難なことから，飼育展示の見直が必要。新たな個体は導入せず現在の個体については終生飼育としたい。

和名：シロエリオオヅル
学名：*Grus antigone antigone*
英名：Sarus Crane

危機的状況の評価：VU（IUCN 2016）

法的規制：CITES I
国内状況：JCP 未掲載
園内状況：1 頭（メス）
方針：
タンチョウ舎の一部を仕切り，単性でやや狭隘な環境で飼育を継続している。適正な飼育環境を将来にわたり確保できないことから飼育展示の見直しが必要。新たな個体は導入せず現材の個体については終生飼育としたい。

和名：ヒヨドリ
学名：*Hypsipetes amaurotis*
英名：Brown-eared Bulbul

危機的状況の評価：LC（IUCN 2018）

法的規制：
国内状況：JCP 未掲載
園内状況：1 頭
方針：
野生鳥獣救護事業の救護対象から外れ，野生からの入手が困難なため，飼育展示を見直す必要がある。

サルワールドの方針

原始的なサルからヒト科に属する大型類人猿に至るまで，多様な霊長類を展示しており，ヒト科との形態的な違いや知的能力の度合いなども含めた比較展示を行っている。ニシゴリラは優先種として取り組んでいるが，連携する京都大学は「霊長類学の祖」であり，本エリアは連携の顔ともいえるエリアであり，チンパンジーやマンドリルについても優先種に準じた取組を進める。

個体群管理の方針
・レッサースローロリス飼育施設の整備及び繁殖可能な個体導入
・ワオキツネザル，フサオマキザル，ショウガラゴの飼育展示継続に向けた取組
・アカゲザルの現個体群の終生飼養
・シロテテナガザルの現有個体の終生飼養

もうじゅうワールドの方針

「もうじゅうワールド」は，正面エントランスから入園する多くの来園者が観覧する最初のエリアである。

このエリアに対する来園者の反応は大きく２つに分かれる。より間近に動物たちを感じられることに対する肯定的な反応と飼育環境の狭さに対する否定的な反応である。昨今，「動物福祉」への配慮が大きな潮流となっており，国際的な取組を進めていく上では課題である。

こうした状況から，本来は群れ（プライド）をつくり暮らしているライオンを，広さに課題がある「もうじゅうワールド」で飼育を継続することは難しく，展示を中止する。なお，本邦初の人工哺育に成功した実績については，将来へ受け継いでいく。

「もうじゅうワールド」では，小型から中型のネコ科の飼育展示に変更していく方針とする。

個体群管理の方針
・ツシマヤマネコの展示個体の維持
・ライオンの飼育展示中止
・アムールトラの飼育展示のあり方の検討
・ジャガーの繁殖に向けた取組
・ヨーロッパオオヤマネコ（メス）の導入
EAZA 登録担当者　Jochen Lengger（ドイツ シュウェリーンの動物園）

【参考】

IUCN レッドリストカテゴリー

Extinct (EX)	絶滅
Extinct in the Wild (EW)	野生絶滅
Critically Endangered (CR)	深刻な危機
Endangered (EN)	危機
Vulnerable (VU)	危急
Near Threatened(NT)	準絶滅危惧
Least Concern(LC)	低懸念
Data Deficient (DD)	データ不足
Not Evaluated (NE)	未評価

※IUCN（International Union for Conservation of Nature and Natural Resources　国際自然保護連合）

環境省レッドリストカテゴリー（2013）

絶滅 (EX)	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下，あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧ⅠA類(CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い
絶滅危惧ⅠB類(EN)	ⅠA類ほどではないが，近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが，生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足(DD)	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で，絶滅のおそれが高いもの

京都府レッドリストカテゴリー（2015）

絶滅種	京都府内ではすでに絶滅したと考えられる種
絶滅寸前種	京都府内において絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧種	京都府内において絶滅の危機が増大している種
準絶滅危惧種	京都府内において存続基盤が脆弱な種
要注目種	京都府内の生息・生育状況について、今後の動向を注目すべき種および情報が不足している種

語句説明

AZA（the (American) Association of Zoos and Aquariums）アメリカ動物園水族館協会

SSP（The American Species Survival Plan）種保存計画

EAZA（European Association of Zoos and Aquaria）ヨーロッパ動物園水族館協会

EEP（The European Endangered Species Programme）欧州絶滅危惧種計画

JAZA（Japanese Association of Zoos and Aquariums）日本動物園水族館協会

BL（Breeding loan，ブリーディングローン）繁殖のための動物貸借

資料２

京都市動物園コレクションプラン2019

	有毛・翼手	霊長	食肉	有蹄	小型哺乳
最優先種		ニシゴリラ	ツシマヤマネコ	アジアゾウ グレビーシマウマ	
優先種	インドオオコウモリ	チンパンジー マンドリル レッサースローロリス	ジャガー ヨーロッパオオヤマネコ ヤブイヌ レッサーパンダ フェネック	ケープハイラックス アミメキリン	
維持種	フタユビナマケモノ	ショウガラゴ ワオキツネザル フサオマキザル シロテテナガザル	アムールトラ ニッポンツキノワグマ ホンドギツネ ホンドタヌキ ニホンアナグマ ミアーアキャット	ロバ ブラジルバク ミニブタ カバ ホンシュウジカ ヤギ ヒツジ	ヨツユビハリネズミ ニホンリス ムササビ テンジクネズミ カイウサギ
調整種		アカゲザル	ライオン	オナガゴーラル	
	2	9	13	12	5

資料２

猛禽類	ペンギン・チドリ	コウノトリ・キジ・ツル	小型鳥類	両性は虫類	魚類	計
					イチモンジタナゴ	5
ハヤブサ	フンボルトペンギン コフラミンゴ	ヨシガモ		ホウシャガメ パンケーキリクガメ ニシキマゲクビガメ ボールニシキヘビ マダラヤドクガエル		20
ワシミミズク シロフクロウ アナホリフクロウ ホンドフクロウ メガネフクロウ スズガオメンフクロウ オオタカ	チリーフラミンゴ ヨーロッパフラミンゴ ベニイロフラミンゴ クロエリセイタカシギ アオバト ケリ ユリカモメ	タンチョウ エミュー インドクジャク ホオアカトキ オシドリ マガモ アヒル カルガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホロホロチョウ ウズラ ニホンキジ タンチョウ ホオジロオナガガモ コガモ ヒドリガモ	ヒワコンゴウインコ アカコンゴウインコ トラツグミ キバタン オオバタン	モンキヨコクビガメ ニューギニアナガクビガメ ニホンスッポン クサガメ ニシニシキガメ セマルハコガメ ニホンイシガメ ミシシッピーアカミミガメ アカアシガメ クロコブチズガメ インドホシガメ エロンガータリクガメ ケヅメリクガメ モエギハコガメ ヒラセガメ グリーンイグアナ ヒョウモントカゲモドキ ヒガシアオジタトカゲ ケニアスナボア ボアコンストリクター ミドリニシキヘビ アオダイショウ シマヘビ カリフォルニアキングヘビ シナロアミルクヘビ ニホンマムシ ニシアフリカコガタワニ オオサンショウウオ イモリ ベルツノガエル ニホンヒキガエル	ティラピア	91
		シロエリオオヅル	ヒヨドリ			5
8	9	19	6	36	2	121

資料２